

OPic(Oral Proficiency Interview-computer)のご紹介

企業のグローバル人材育成における実践的な英語力向上の要請、文部科学省の「話す・聞く」を重視した英語力を測る新テストの検討など、英語コミュニケーション力の必要性は企業を問わず、アカデミック領域においても日に日に高まってきております。このような状況下、NECラーニングでは2013年4月より英語コミュニケーションテストOPicを企業向けに展開してまいりました。本稿では当社が提供しているOPicテストの概要と英語コミュニケーションレベルを判定するためのACTFL(注)基準について紹介いたします。

なお、11/9の秋季大会ではこれらの内容に加えて、半年間のサービス提供から見えてきた英語能力について、OPicテストの受験データをもとに当社が目指す英語コミュニケーション力向上への取組内容をご紹介させて頂く予定です。皆様にOPicの利便性を知って頂き、利用方法についてご意見・ご助言を頂ける場となれば幸いです。

1. 英語コミュニケーションテストOPicとは

OPicは、全米外国語教育協会ACTFLが、ACTFL公認評価者と受験者が1対1でインタビューを行い、英語によるコミュニケーション力を判定するテストOPI(Oral Proficiency Interview)を、受験しやすいiBT(Internet Based Test)形式で実施できるように2007年に開発したものです。

OPicは、英語の語彙力や文法の知識を測定するだけでなく、実際の業務や生活の中でどれだけ効果的かつ適切に駆使できるかを測定する英語コミュニケーション力評価テストです。

現在、全世界90ヶ国以上で導入されており、累計で受験者数80万人を超える実績がございます。

受験料は、1名につき9,800円(税別)で、当社では企業マーケットを中心に販売を行っています。また、東京、大阪といった常設の会場に加えて、5営業日以上前に予約確定されたインターネット環境、テスト会場環境で個人認証が可能な日本国内であればOPicテストを受験できるといった利便性を有しているのも特徴の一つです。

当社では、OPicを英語コミュニケーションテストに留めることなく、グローバル人材育成事業モデルの中の一手段として位置づけ、広く英語コミュニケーション力向上サービスを提供される方々にACTFL、OPicの有用性理解を働き掛け共働して参りたいと考えています。

OPicの概要は次のとおりです。

対象言語	英語
テスト時間	約60分(オリエンテーション20分、テスト最大40分)
出題内容	Background Surveyを通じて個人に合わせた問題を出題 例えば、職業、レジャー、趣味、関心事、スポーツ、旅行などのトピック
評価基準	ACTFL Speaking Guidelines 2012基準 OPic level 1~7 (Novice Low~ Advanced Low)
問題数	12~15問(個人によって異なる)
テストの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な方法で「話せる」状況を実現 ● 実践的なスピーキング力を測る評価項目 ● 高い利便性
評価要素	<ul style="list-style-type: none"> ● Function/ Global Tasks(コミュニケーション継続能力) ● Text Type(文章構成力) ● Contents/ Context(状況に応じた表現力) ● Comprehensibility(質問意図の把握能力) ● Language Control(文法・語彙・流暢さ・発音) →一つの評価領域に偏らず、受験者の会話を総合的に評価

2. ACTFL 基準とその活用局面

OPicテストを受験した結果は、ACTFLが定めたACTFL Speaking Guideline 2012(ACTFL基準)に基づいてACTFL公認の評価

者 (Certified Rater) によって厳格かつ迅速に評価されます。全 11 段階のうち下位の 7 段階の評価レベルできめ細かく判定されます。英語コミュニケーション力をこの ACTFL 基準に基づいて評価していることは OPIc テストの大きな特徴でもありますし、他のテストとの違いとなります。

ACTFL 基準の特徴は、できる、できないといった〇×で判定する従来の achievement テストとは異なり、外国語を使って何ができるか、すなわちタスク能力の proficiency を測るという点にあります。すなわち、文法、語彙、流暢さ、発音といった Language Control や相手が言ったことを理解する能力である Comprehensibility だけでなく、Global Tasks、Text Type、Contents・Context といったコミュニケーション能力の判定に不可欠な要素も加味し、総合的 (ホリスティック) に評価するという点に特徴があります。これらの評価要素、評価方法は、英語に限定されない他の言語にも適用される共通の物差しとして位置付けられています。

実務においては、実際にビジネスの現場で何ができるかが重要であり、ACTFL 基準では各レベルごとに「ビジネスにおいて何ができるか」が明確に定義されています。

Level	Level略称	言語能力
Advanced	LOW	AL 自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使することができる。
	HIGH	IH 文法的に大きな間違いが無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。
Intermediate	MID	IM1～3 小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 ※IM3(上)、IM2(中)、IM1(下)に細分化される
	LOW	IL 日常的な話題はセンテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。
	HIGH	NH 簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。
Novice	MID	NM 既に暗記している単語やセンテンスで話すことができる。
	LOW	NL 限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。

また、米国においても ACTFL は各レベルごとに言語レベルと職種の対応を詳細に定義し、OPI、OPIc の実務における活用・普及を進めております。たとえば、米国の多くの州では語学教師の認定に ACTFL 基準に基づいた OPI、OPIc 等のテスト結果に最低限のレベル保有を要求しています。職種ごと、州ごとにレベルが明確に規定され、語学能力が担保される運用がなされております。

普及という面では毎年 ACTFL 大会が米国内で実施され (2013 年 11 月 22 日・24 日開催予定)、全世界の学校教育に携わっている方々の貴重な情報交換の場となっています。

ACTFL の思想、評価基準を踏まえた、小中高校における英語教育現場での活用方法や企業におけるより効果的な適用パターンの具体化や実績づくりのために、まずは、次世代グローバル人材の育成の重要な役割を担っています大学での英語教育の場での検証や活用を積極的に進めていきたいと考えております。

(注) ACTFL の紹介

The American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) is dedicated to the improvement and expansion of the teaching and learning of all languages at all levels of instruction. ACTFL is an individual membership organization of more than 12,000 language educators and administrators from elementary through graduate education, as well as government and industry. Since its founding, ACTFL has become synonymous with innovation, quality, and reliability in meeting the changing needs of foreign language educators and their students. From the development of Proficiency Guidelines, to its leadership role in the creation of national standards, ACTFL focuses on issues that are critical to the growth of both the profession and the individual teacher. (出典：ACTFL ホームページ)

※本文に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

<本件に関する情報> <http://www.neclearning.jp/opic/>